

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	15HP2012	事業期間	平成 27 年度～平成 31 年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
日本をはじめとするアジア・アフリカ・中南米の染色体資源の保護と国際情報発信力強化		公益財団法人 日本メンデル協会	会長 河野 重行
学術刊行物の名称			(略称)
CYTOLOGIA			

【平成 29 年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
○ A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>CYTOLOGIA は歴史のある雑誌であるが、当該学問分野の進展に伴い、掲載論文の守備範囲、内容、レベル及び雑誌の構成・形態等の今日の変革を迫られており、現在、改革の最中である。雑誌の大判化（A4 版化）、英語圏以外からの投稿に対する英文校閲とカラーページの無料化、電子ジャーナルのオープンアクセス化はすでにほぼ達成されたと考えられるが、アジア、アフリカ、中南米、オセアニアなど主要投稿地域からの編集委員・編集顧問の充実、海外頒布市場の開拓は未完成のようである。</p> <p>また、平成 29 年度以降 31 年度までの実施計画と補助金の使途はほとんど同じであり、計画の進展が見られない。助成期間終了後の計画も投稿料の値上げによって賄うようだが、助成期間中に体制を整えるべきではないか。現時点では、電子ジャーナルと紙媒体の両立の必要性は理解できるが、両立にはメリットとデメリットがあり、将来的には、電子媒体への一本化も検討すべきであろう。</p>	